



校長室だより

第 1 9 号

令和3年7月19日(月)

大崎市立沼部小学校

校長 吉田 浩之

靴をそろえましょう（その2）

5年生が花山合宿から元気に帰ってきました。天気にも恵まれ、充実した活動ができたようです。2日間の活動を通して、ぬまっこのサブリーダーとして、今後ますます活躍してくれることでしょう。5年生の保護者の皆様、準備等ありがとうございました。

5年生はしっかりと靴をそろえることを意識して活動できたようです。改めて靴をそろえることの効能について考えてみました。私たちの世代は小さい頃よく「靴をそろえなさい。」と言われて育ってきました。当時は、なぜそろえなければならないのか、よく分かりませんでした。脱いだ靴をそろえることができると、それだけで周りから「きちんとしている」と相手に印象付けられます。玄関先の行動ですべて判断されるわけではありませんが、第一印象が良いことに越したことはありません。

スリッパやサンダルにはき替えなければならないトイレがあります。そのとき、履き替えた靴を脱ぎっぱなしにしていることがよくあると思います。忙しいからとか、めんどくさいからということかもしれませんが、そのようなときはきっと心に余裕がないのでしょう。忙しくても心に余裕をもつことは大切だと思います。そろえることはほんの数秒あったらできることです。次に（スリッパやサンダルを）履く人が、気持ちよく履くことができるといいなと、靴をそろえることで、他人への思いやりの心を育てることもつながると思います。

少し話はそれてしまいましたがお許してください。職人さんや一流のアスリート、一流のアーティストは自分の使っている道具をとてども大事に手入れします。昨年6月に逝去した私の父は職人（大工）でした。やはり道具の手入れは怠りませんでした。仕事から帰ってくると、かんなの刃を研いだり、のこぎりの目立ちをしたりと道具の手入れを丁寧に行っていました。幼心に父のそのような姿はかっこいいなあと思っていました。これは靴をそろえることに通じるものがあると思います。仕事でいい結果を残すために大切なことですよね。「何か物事を始めるのに、最初に大切なことは、『整えることだ』』と言っていた人がいます。まさにその通りだなと思います。靴は歩くための大切な道具、それをほんの2～3秒でそろえてみる、なんか気持ちよくなるような気がしませんか。

今、3年生が靴箱に靴を入れる際、きちんと並べるように頑張っています。学校では、靴をそろえる場面はそう多くありません。外靴や上靴を靴箱に入れる、コンピュータ室やプールで学習するときには靴を脱ぐ、そのくらいかもしれません。ですから、靴をそろえることは御家庭と一緒に、取り組んでいきたいなと思っています。是非子供たちに玄関先で靴をそろえることへの声掛けをお願いしたいのです。

今日からできる簡単なことです。「自分だけやっても・・・」と思う人がいるかもしれません。しかし、自分がやらないと何も変わらないのです。御協力をお願いします。

夏休みを迎えます。1学期前半、子供たちのために多大なる御協力をいただきました。ありがとうございました。